

筑前国怡土庄故地現地調査速報

服部, 英雄
九州大学大学院比較社会文化研究院 : 教授

<https://doi.org/10.15017/1520164>

出版情報 : 1999-12-31. 服部英雄研究室
バージョン :
権利関係 :

〈東貝塚〉

修士1年 三村 講介

〔小字について〕

- 四反田…「したんだ」と発音

〔水利関係の話〕

- 小字平原にある平原溜池は、昔「新堤」と言っていた。
- 小字石川の石川溜池は、半がかり（水を満水状態の半分までしか入れないこと）であった。
- 東貝塚公民館のすぐ前にある、昔からある井戸の水はおいしい水だったが、ボーリングのせいで、水脈が切れて水が湧いてこなくなった。それまでは柄杓ですくえるくらいいっぱい水が湧いていた。
- 東貝塚地区では各田んぼごとにボーリングをして水を確保している。その結果、水は安定供給されるが、あちこちで地下水脈が切断されてしまい、問題が生じている。
- 「ハタマガ池」は大字小金丸にある池である。
- 「丸尾」の溜池…現在は埋めてしまっている。地藏山東側の道の先にあった。
- 「大辻」には山北溜池から水路が続いており、途中で懸樋もあった。

〔祭礼について〕

- 千度潮井についてのこぼれ話
芥屋の海岸までは国有林の中の道なき道を真っ暗な中、提灯ひとつで往復していた。子供たちで列を作っていくが迷子になりそうな時もあったそうだ。
- 共有田（神田）があった場所
「ウエムラ」にあった
「鍛冶屋づくり」にあった（平原組の神田）
「深谷」にあった（山北組の神田）

〔その他の話〕

- この付近は太宰府の観世音寺領だったが、そこへ年貢を輸送するときは、
貝塚・寺山→末永地区→（日向峠）→早良郡方面→太宰府という道筋をたどっていた。

〈西貝塚〉

〔地名〕

- テラヤシキ…検地帳に出てきた名前。ここに観音堂が今も残る。
- ミヤヤマ…同上。ここに若宮神社（花掛神社）がある。この花掛神社はもともと大字岐志にある社である。つまり、西貝塚の人たちは岐志から入植してきて、岐志の鎮守であった花掛神社を勧請したのだという。

〔その他の話〕

- 東貝塚でも聞いた話だが、「いち桑、に扇、さん貝塚」という言い回しがある。
これは糸島郡で生活しやすい（つまり、作物がよくとれる）ところベスト3を挙げたもので、現在

福岡市西区の桑原地区が一番、前原市扇浦が二番、そしてここ貝塚地区が三番というわけで、それくらいこの地域は地味がよく、作物の収穫高がよい地域だということである。

- 余談だが、今後現地調査に行く機会があれば、寺山地区の鎌田富雄さん（鎌田俊章さんのお父さん）が寺山地区の歴史に詳しいと進藤さんから紹介をいただいた。

【今回の調査の感想】

とにかく今回調査したどちらの地区でも、お話を聞いた方々が昔のことをよく覚えていらっしやっただので、かなりの成果を挙げることができた。こちらが思っていた以上に「ほのけ」などが残っていて、改めてこうした現地調査の必要性を実感したものである。特に東貝塚の方でお話を伺った永長さん兄弟は、弟さんの方が昔役場に勤めていらっしやっただそうで、頭の奥から古い記憶を次々と出していただき、もう忘れたということもいくつかありはしたが、東貝塚での成果はあの方の記憶の賜物であった。非常におもしろく、有意義な調査だった。また、西貝塚の進藤さんにも、公民館館長というお忙しい職務の中、時間を割いていただいて、これまた大きな成果を挙げることができた。ここに記して感謝の言葉に代えたい。それにしても旧御床村の地域は広く、現地調査が全く中途半端で終わってしまい残念である。まだまだ寺山地区など、調査すれば成果の挙がりそうな地域が残っているだけに、今後早急な調査の継続を望みたい。

志摩町西貝塚地区

学部2年 入口高子

平成10年3月7日実施

進藤嘉和氏（昭和2年生）より聞き取り

【地名、寺社、旧跡について】

- 盗人ヶ浦…小字はセンチョウダ
- 地獄道…畦道の名、昔の仏教に由来
- ゴウゾウ…地獄道の先にある
- 石原（イシワラ）…石ばかりあった
- 恋塔…由来不明
- へへり坂…坂道とその周辺、登っていくのに屁の出るような坂ということから
- アナカゼ…山後（ヤマノウシロ）の一部
- 道目木（ドウメキ）…小字は鬼ヶ原
- サンペイ（三平カ）…字名でない呼び方
- タケノコシ…西貝塚にも新町にも岐志にもある地名

他に、徳人坂（岐志）と所坂（西貝塚）はいずれも「トクンザカ」と呼ぶ。土地台帳では分かれている。もとは同じ地名か。

さらに、八熊（ハチクマ：西貝塚）と屋熊（ヤグマ：東貝塚）も似ている。